

予 算 要 求 資 料

令和 8 年度当初予算

支出科目 款：農林水産業費 項：農業費 目：植物防疫費

事業名 病害虫発生予察事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

農政部 農産園芸課 ぎふ清流GAP推進係 電話番号：058-272-1111(内4116)

E-mail：c11423@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 3,829 千円 (前年度予算額： 3,829 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	3,829	2,704	0	0	0	0	0	0	1,125
要求額	3,829	2,704	0	0	0	0	0	0	1,125
決定額	3,829	2,704	0	0	0	0	0	0	1,125

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

近年の農業生産現場においては、栽培作物、作期、栽培体系が多様化し、これに伴い病害虫の発生も一層複雑多岐になっている。こうした中、農作物の生産性や品質を確保しつつ、効率的な防除を実行するためには、病害虫の発生予察は重要な役割を担う。

また、令和 5 年 4 月に植物防疫法の一部が改正され、国内への侵入を警戒する重要病害虫として国が定める 23 種の病害虫について侵入調査を開始した。

発生予察は、病害虫の発生消長、環境条件(地域、気象)、農作物の生育状況等の様々な調査データに基づいて行う必要があることから、県下各地の巡回調査を定期的を実施することで多くの調査データ集積し、より高精度な発生予察情報(病害虫情報、注意報等)を農業生産現場へ提供することで、的確かつ効率的な防除の推進を図っている。侵入調査では、国が侵入を警戒する重要病害虫について、県内への侵入を監視することで、病害虫の早期発見とまん延防止を図るうえで重要な役割を担っている。

(2) 事業内容

病害虫の発生状況等を調査し、農業生産現場へ発生予察情報を提供する。

ア 指定病害虫発生予察事業(国補)

・国指定病害虫17作物、98種について、発生予察業務を実施。

・新たな病害虫や地域で問題になっている指定病害虫について、予察手法や防除対策等を検討。

イ 重要病害虫発生予察事業(県単)

・国指定外病害虫10作物、25種を県の重要病害虫に位置づけ、発生予察業務を実施。

・新たな病害虫や地域で問題になっている重要病害虫について、予察手法や防除対策等を検討。

ウ 侵入調査(国補)

・国指定重要病害虫23種について、令和 7 年度から調査業務を実施。

(3) 県負担・補助率の考え方

- ・指定病害虫：国10/10（千円未満は県負担）
- ・重要病害虫：県10/10

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
旅費	519	巡回調査等
需用費	2,369	調査用資材、一般事務費
役務費	561	通信運搬費
委託料	83	廃薬剤処理、予察灯設置に係る管理委託料
使用料	12	予察灯設置に伴う土地借り上げ料
補償・補填費	285	調査ほ場補償費
合計	3,829	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

植物防疫法第24条、31条、35条

(2) 国・他県の状況

植物防疫法に基づき、全都道府県で実施

(3) 後年度の財政負担

継続

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

発生予察は、病害虫の発生活消長、環境条件（地域、気象）、農作物の生育状況等の様々な調査データに基づいて行う必要があることから、県下各地の巡回調査を定期的実施することで多くの調査データを集積し、より高精度な発生予察情報（病害虫情報、注意報等）を農業生産現場へ提供することで、的確かつ効率的な防除の推進を図る。

侵入調査では、国が重要病害虫として侵入を警戒する重要病害虫22種に対して、誘引剤、フェロモントラップ、目視調査により県下各地域で調査を実施する。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R)	R5年度 実績	R6年度 目標	R7年度 目標	終期目標 (R)	達成率
①						
②						

○指標を設定することができない場合の理由

病害虫発生予察事業は植物防疫法に基づき実施しているため。

（これまでの取組内容と成果）

令和4年度	<ul style="list-style-type: none"> 県下各地域の巡回調査等により病害虫発生データを集積し、高精度な発生予察を行い、発生予察情報を提供した。 侵入病害虫について、県下各地域に調査地点47カ所を設置し、延べ回数141回調査を実施した。 <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>
令和5年度	<ul style="list-style-type: none"> 県下各地域の巡回調査等により病害虫発生データを集積し、高精度な発生予察を行い、発生予察情報を提供した。（県情報7回、地域情報16回等） 侵入病害虫について、県下各地域に調査地点のべ22カ所を設置し、延べ回数150回調査を実施した。 <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> 県下各地域の巡回調査等により病害虫発生データを集積し、高精度な発生予察を行い、発生予察情報を提供した。（県情報7回、地域情報16回等） 侵入病害虫について、県下各地域に調査地点のべ47カ所を設置し、延べ回数141回調査を実施した。 <p>指標① 目標： _____ 実績： _____ 達成率： _____ %</p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	農薬の効率的な利用を推進するためには、病虫害の発生予察情報が必要である。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 3	平成18年度の食品衛生法改正により残留農薬基準が厳格化されて以降、現在まで基準値違反は発生していない。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 2	調査地点や調査手法の見直し等により、効率的な事業実施に努めている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 病虫害防除所職員が減少傾向にあるものの、植物防疫法の一部改正により詳細な発生予察調査が求められる指定病虫害の数が増加、海外飛来性害虫及び侵入病虫害の発生により調査回数の増加等の課題がある。そのため、病虫害発生予察情報の充実を図るため、病虫害防除所職員の人員を確保するとともに、対象病虫害の予察手法等の点検を行い、病虫害防除指導のための情報提供の充実を図る必要がある。</p>
--

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 県産農産物の安全性確保と信頼性向上のため、病虫害発生予察情報の的確な提供、適切な防除方法の継続的な情報発信が必要である。 令和5年度から植物防疫法の一部改正により、詳細な発生予察調査が求められる指定病虫害の数が令和4年度から15種増加したことから、調査方法の効率化が重要となる。また、海外飛来性害虫等の重大な被害を及ぼす病虫害に対応し、速やかな情報発信が可能な体制とする。</p>
--

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課	病虫害防除員報償費、病虫害防除員活動費 【農産園芸課】
組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など	病虫害防除員とともに発生予察事業を実施する。